

令和4年度「植田地域まちづくり講演会」

演題 「災害多発時代を生きる」



賀来地区無提部の越水状況(平成16年10月台風23号)

- 多発化・激甚化する災害多発時代
全国各地で発生する災害の実態とともに社会システムにおける「減災」について解説
- 大分県で想定される各種災害や平成29年7月豪雨・台風第18号、令和2年7月豪雨について
- 植田地域で発生した過去の災害や地域に潜む災害リスクについて
- 令和2年7月豪雨からの教訓

【講師紹介】

鶴成 悦久(つるなり よしひさ) 氏

国立大学法人大分大学 教授・博士(学術)
減災・復興デザイン教育研究センター長【CERD】

【出身地】大分県杵築市山香町

【学歴】鹿児島大学大学院連合農学研究科(農水圏資源環境科学専攻)

《研究紹介》

専門は土木工学における空間情報工学、海岸環境工学、災害情報学。災害の備えから発災時の対応、復旧や復興、そして環境の変化など減災科学を中心とした教育研究を行う。

平成30年4月に中津市耶馬溪町金吉で発生した山地崩壊災害では、中津市からの災害派遣要請を受け、現地災害対策本部での対策及び創作活動の助言にあたった。令和2年7月豪雨では、県内で被災した国道の調査や自治体の災害対応の支援を行い、被災した日田市や由布市において地域防災の向上に向けた取組や、復旧・復興への支援を行うなど、大分県内の防災・減災の専門家として取り組んでいる。



【入場無料、事前予約不要 定員80名】

日時：令和5年2月4日(土)

午前10時～11時30分

場所：大分市植田市民行政センター 2階 大会議室

《主催》 植田地域まちづくり活性化事業推進委員会

新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または内容の変更を行う場合がございます。入場時にはマスク着用・検温・消毒にご協力をお願いいたします。